



Title	新年のごあいさつ
Author(s)	久多里, 文也; 高山, 佳洋; 辻, 隆司 他
Citation	makoto. 2014, 165, p. 2-5
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/85678
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

新年のごあいさつ



一般財団法人
大阪防疫協会

理事長久多里 文也

新年あけましておめでとうございます。
皆様方には健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。
旧年中は何かとお力添えを頂き有難うございました。

本年も変わらずご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年は感染症に関する多くの話題が注目されました。

1月に国内で初めてマダニ媒介性の重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の患者が確認され、その後の調査で過去に複数の県でも患者が確認されました。また、患者の報告がなかった県でもSFTSウイルスを保有するマダニが検出されていて、少なくとも、日本の中部以西に広く存在するものと思われ注意が必要です。

3月には、中国で鳥インフルエンザウイルス（H7N9型）による感染症が発表され、5月には感染症法に基づく「指定感染症」とする政令を施行、すべての年代の日本人に免疫がないことがわかりました。ヒトからヒトへの感染拡大が危惧されています。

また、2月頃から妊娠子育て世代の成人、特に20代から40代の男性患者が増加し5月から6月にかけてピークとなった風疹の大流行、合併症として急性脳炎、血小板減少性紫斑病などが報告され、先天性風疹症候群（CRS）の発生増加が懸念されています。

さらに、中東ではMERSコロナウイルスによる重症呼吸器疾患（中東呼吸器症候群）の症例が継続的に報告されております。そして中米やアフリカでのコレラの流行等、私たちの暮らしは国内また、グローバル化しつつある様々な感染症による脅威にさらされております。

また、近年、身近なところではセアカゴケグモ、トコジラミ、スズメバチ等の害虫相談も多く油断できない状況でございます。ところで、ミツバチ（ニホンミツバチ）は、天敵であるオオスズメバチが巣内に侵入すると数百匹の働き蜂がオオスズメバチに一斉に殺到し、「蜂球」と呼ばれる集団を形成し、飛翔筋を震わせ、47度位まで発熱させてオオスズメバチを蒸し殺そうとします。

人々の叡智で、この様々な感染症の脅威から、一日でも早く解放されることを心より願っております。今年が、皆様方にとって素晴らしい年でありますことをお祈りいたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のごあいさつ



大阪府健康医療部長

高山 佳洋

新年あけましておめでとうございます。

一般財団法人大阪防疫協会におかれましては、日頃から本府の健康医療行政に対して格別の御支援、御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、昨年1月、山口県において新たなダニ媒介性疾患であるSFTSウイルスによる重症熱性血小板減少症候群が日本で初めて確認され、2月以降、中国、四国、九州、および近畿地方において新たに複数の症例が確認されました。

また海外では、3月に中国において鳥インフルエンザ（H7N9）の家きんから人への感染が初めて確認され、世界的に大きな問題に発展しました。

これまでヒトへの感染が確認されていなかったインフルエンザウイルスが変異してヒトからヒトに感染するようになれば、甚大な健康被害に見舞われ、多くの人命が失われる恐れがあり、社会全体の混乱も懸念されます。

本府としましては、昨年4月に施行された「新型インフルエンザ等対策特別措置法」に基づき、「大阪府新型インフルエンザ等対策行動計画」を策定し、医療に加え、社会機能維持の側面からも、より一層の対策の強化を図っているところでございます。

貴協会におかれましては、これまで培ってこられたワクチンの備蓄・供給やネズミ・昆虫等の防除等、公衆衛生に関する豊富な経験・知識や高度な技術をいかんなく発揮され、引き続き感染症の発生及びまん延の防止に御協力くださいますようお願い申し上げますとともに、今後とも公衆衛生の向上に向けた取り組みや御活躍をされることを大いに期待しております。

結びに、貴協会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝をお祈りいたしまして新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ



大阪市健康局
健康推進部
生活衛生担当部長

辻 隆 司

新年あけましておめでとうございます。
一般財団法人大阪防疫協会の皆様方には、すがすがしい新春をお迎えのことと、心よりお喜び申し上げます。

貴協会の皆様方におかれましては、市政の各般にわたり格別の御理解、御協力を賜り、厚くお礼申し上げますとともに、防疫に関する相談事業など日頃より社会貢献に取り組まれ、御努力されていることに深く敬意を表す次第であります。

昨年は全国的に記録的な猛暑日が続き、また、局地的な大雨の発生や10月に日本列島へ接近した台風が観測史上最多となるなど異常気象が全国各地で見られました。一方、マダニが媒介する重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の患者が国内で初めて確認されるとともに、西日本を中心に年間を通して患者の報告が相次いだ一年となりました。

これら災害や感染症に対して、貴協会の永年にわたり培ってこられた防疫対策・衛生害虫獣の防除に関する豊富な知識と経験は心強いものであり、今後ますます重要となる危機管理の分野において、専門的な見地から地域を支え、緊急時における住民の安全・安心の確保に御尽力頂くとともに、公衆衛生の向上に寄与頂きますよう期待申し上げます。

さて、大阪市では、活力ある大阪を取り戻すために、大阪・関西が持つ強みに磨きをかけて、高い付加価値や技術革新を生み出し、国内外から、人材・資金・情報が集まる魅力あふれる大阪をめざすとともに、基礎自治行政においては、「自らの地域のことは自らの地域が決める」という意識のもと、地域の様々な活動主体が協働して地域のまちづくりに取り組む活力ある地域社会の実現をめざしてまいりました。

本年も引き続き、これまでの取り組みをさらに発展させ、「市政改革プラン」に基づく改革を着実に実行し、市政に定着させるとともに、大阪の成長、市民生活の向上、安定した財政基盤を将来においても確かなものとするためにも、新たな大都市制度の実現に向けて全力で取り組んでまいりますので、皆様方のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたり、一般財団法人大阪防疫協会の今後ますますの御発展と皆様方の御健勝、御活躍を心からお祈り申し上げまして、新年の御挨拶といたします。

新年のごあいさつ



堺市健康福祉局
健康部長

坂 口 廣 志

新年あけましておめでとうございます。

一般財団法人大阪防疫協会の皆様におかれましては、お健やかに輝かしい午年の新春を迎えになられたことと、心よりお慶び申し上げます。旧年中は本市保健衛生行政の推進にご理解とご協力を承り、心からお礼申し上げます。

さて、昨年は伊豆大島をはじめ過去稀にみる大きな被害をもたらした台風災害や高知県四万十市では国内観測史上最高気温41℃を記録した異常気象など、日本全体が自然災害に苛まれた年でした。そのような中、2020年東京オリンピック開催地決定や富士山が世界遺産に登録されるなど明るい話題もあり、日本経済においても少しは景気が回復してきたように思われます。また、プロ野球界では東北楽天イーグルスが創設以来初の日本一に輝き、東北の人々には改めて元氣・勇氣・活氣を与えたことでしょう。

本市では、「子育て」「歴史文化」「低炭素社会」の3つをキーワードとした堺市マスタープランに基づき「未来へ飛躍する自由都市堺」の実現に向けて進めています。歴史文化においては地域資源を活用した堺ならではの賑わいと魅力の創出に取り組み、平成27年度の「百舌鳥・古市古墳群」の世界文化遺産登録に向け、古墳群の雄大さと歴史を体感できるガイダンス施設の整備などを進めています。また、地域医療分野では来春に三次救急と二次救急が一体となった高度・専門医療を提供する（仮）堺市総合医療センター・救命救急センターの開院を予定しています。

今後とも、貴協会が有する豊富な知識、経験、高度な技術を、「健康都市・堺」の環境を確保するため、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展と皆様方のご活躍とご健勝、そして本年が皆様にとりまして健康で幸多い一年となりますことを心よりお祈りいたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ



東大阪市健康部長

中谷 恭子

新年あけましておめでとうございます。
新春を迎え、一般財団法人大阪防疫協会の皆様方には、益々ご清栄のことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は、本市の保健衛生行政の推進につきまして格段のご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年10月に消費税の増税が閣議決定されました。今年の4月1日から消費税率が8%に引き上げられることにより、国民生活への影響が懸念されるところです。

そんな中、2020年の夏季オリンピック競技大会が東京で開催されることが決定しました。オリンピックを目指す選手をはじめ多くの日本人が期待に胸を膨らませ、オリンピック開催に向け日本経済も活気づくことでしょう。しかしその一方で、オリンピックの開催により世界中からヒトやモノが流通し、世界で広がりつつある新たなウイルスや衛生害虫などが日本にもたらされる恐れも危惧され、公衆衛生の面では十分注意する必要があります。

また、昨年は各地で記録的な豪雨や台風が猛威をふるい、気象庁が「これまで経験のない大雨」と発表し、警報の発表基準をはるかに超える現象に対して新たに「特別警報」が設けられました。近畿地方も多大な被害に見舞われ、本市においても、床上浸水や土砂崩れなどの被害が発生し、汚水が浸水した地域の消毒等の対応を実施しました。東日本大震災から早や3年が経過しましたが、防疫活動や衛生管理の対策をはじめ、災害時の危機管理体制を十分に備えておくことが重要であることを改めて感じているところであります。

貴協会におかれましては、永年にわたり培ってこられた公衆衛生における豊富な知識と経験、高度な技術を遺憾なく発揮され、本市の保健衛生行政の推進に、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、一般財団法人大阪防疫協会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ



高槻市健康福祉部長

西岡 博史

新年明けましておめでとうございます。

新春を迎え、一般財団法人大阪防疫協会の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

旧年中は、本市の保健衛生行政の推進に格段のご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は本市にとって市制施行70周年、中核市移行10周年の記念すべき節目の年でした。高槻市保健所も、地域の実情に合った総合的な保健サービスを提供する拠点として、昨年4月1日に開設10周年を迎えることができました。今後、より一層の健康危機管理体制の充実・強化を図るとともに、市民の健康を増進し、安全で安心して暮らせる環境を確保するため、なお一層の努力を重ねてまいります。

さて、昨年も全国各地で地震、台風、竜巻等の災害が発生いたしました。本市では、今後発生が想定される東南海・南海地震などの大災害時に備えて実効力のある医療救護を実施するため、高槻市医師会、高槻市歯科医師会、高槻市薬剤師会のそれぞれと「災害時の医療救護に関する協定」を昨年7月30日に締結いたしました。これは、本市で大規模災害が発生した場合に、救護所等に医師や歯科医師、薬剤師等の方々を派遣していただき、急病者に対する処置や口腔ケア、服薬指導を行うなど、本市の地域防災計画にあります医療救護活動を円滑に実施していくためのものです。

大災害時には、医療救護に加えて、環境衛生の確保や感染症の予防が大きな課題となりますが、平時においても、防疫活動や衛生管理体制の整備が求められます。貴協会におかれましては、永年培ってこられた豊富な知識と高度な技術を遺憾なく発揮され、今後とも本市の保健衛生行政の推進にご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝、ご多幸を心から祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ



豊中市健康福祉部長

長 内 繁 樹

新年あけましておめでとうございます。

新春を迎え、一般財団法人大阪防疫協会の皆様方には、益々ご清栄のことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は、本市保健衛生行政の推進にご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、国内では大島町における台風による土砂災害をはじめ地震、竜巻、大雨などによる災害が発生し、海外においてもフィリピンにおける台風被害が伝えられました。本市においても、昨年8月に大雨による浸水被害を受け、罹災ごみの収集、被害家屋の消毒等の対応を行いました。災害時の感染症発生を予防するため、環境衛生対策が必要不可欠なことを再認識したところです。

また、市内では、平成17年にセアカゴケグモの生息が確認され、以後生息区域が拡大傾向にあり、相談件数も年々増加を続けております。セアカゴケグモの生態、駆除方法及び咬傷時の対応について正しい知識を啓発し、咬傷事故防止を図ることを目的に、保育所・幼稚園・学校職員を対象にセアカゴケグモ対策講習会を企画しましたところ、貴協会のご協力により講師を派遣いただけのこととなり、昨年8月に無事開催することができました。貴協会の豊富な実例を紹介した講習内容は、受講者からわかりやすいとご好評をいただきました。

今後、南海トラフ地震などの災害、新型インフルエンザ、ウエストナイルウイルスの日本への侵入などが懸念され、危機管理体制の充実はますます重要となっております。

貴協会におかれましては、永年にわたり培ってこられた防疫や環境衛生対策に関する豊富な知識と経験、高度な技術をいかに発揮され、本市の保健衛生行政の推進に、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、一般財団法人大阪防疫協会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ



一般財団法人
阪大微生物病研究会

理事長 山 西 弘 一

新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。旧年中は、当財団のワクチン事業に対し、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、富士山の世界遺産登録や、2020年夏季オリンピック東京招致決定など、我が国が世界を魅了した1年でした。美しい自然や技術だけでなく、「おもてなしの心」が世界中の人々の心を動かせたこと—これこそが我が国が世界に誇る力の源泉であります。

一方、昨年は風疹が成人男性を中心に大流行しました。妊婦が感染すると出生児に障害をもたらす先天性風疹症候群（CRS）の発生が相次ぎ、20名以上の患児が出生しました。このような痛ましい感染症の流行を繰り返さないために、予防接種の重要性を今一度社会全体で共有すべきです。

予防接種には、受けた本人だけでなく周囲の人々をも守ることで社会を感染症から防御するという役割があります。即ちワクチンは、新しく生まれくる者、弱者への「おもてなしの心」が基礎であり、それは我々の文化の一部として深く浸透し得るものと認識しております。国民の理解から文化へと昇華するため、今こそ官・民・産の底力が試される時です。

さて、阪大微研会は、本年4月より（一財）日本ポリオ研究所と合併することとなりました。今後は、当財団並びに大阪大学微生物病研究所と三位一体となって、ワクチンの開発・製造・供給を通じ、国内外の公衆衛生の向上に貢献できますよう、一層努めて参ります。

また、製品の安定供給はもとより、市民公開講座や各種セミナーの開催、ホームページの充実など、広く情報提供や啓発活動を行い、予防接種の重要性をご理解頂けるよう努めて参ります。

最後になりましたが、貴協会のますますのご発展と皆様方のご活躍ご健勝を祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。